



2019年11月11日

川西市議会議長 様

会派(呼称)名 市民クラブ“改革の風”

議員名 岡 留美

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

- 1 調査者氏名 岡留美、津田加代子、福西勝、中井成郷、谷正充
- 2 調査先 高知県南国市学童保育連絡協議会
- 3 調査期間 2019年10月31日
- 4 調査結果の概要

【出席者】

南国市学童保育連絡協議会 理事長 澤本 吉子氏
南国市学童保育連絡協議会 事務局長 甲藤 義歩氏
香南市議会議員 齊藤 朋子氏
市民クラブ“改革の風” 議員団

【内 容】 (写真はひまわりクラブのもの)

まず、南国市学童保育連絡協議会（以下、市連協）の事務所にて、市連協を紹介して頂いた齊藤香南市議同席のもと、澤本理事長、甲藤事務局長より設立経緯、運営状況等の説明を受け、その後、事務所近隣の大篠小学校内（校庭）にて、ひまわり学童クラブ、たんぽぽ学童クラブを視察した。

丁度、児童がクラブに帰って来る時間帯で、宿題やおやつの様子等を見ることができた。





南国市は、市内13小学校のうち11校に12の学童クラブを設置しており、運営は全て南国市学童保育連絡協議会と各学童クラブの運営委員会が市の委託を受け行っている。

同市の学童保育は「放課後や夏休みに、子ども達に寂しい思いをさせない」という親の願いが運動となり、地域から行政に働きかけて実現してきた。今も南国市には市直営の学童保育はなく全て民間がその責を担っている。

そのため、子どもが入所すると保護者は自動的にクラブの運営を担う一員となり、その「運営委員会」は各クラブの児童の保護者や運営委員会が認める個人等で構成される。保護者は単に子どもを預けるのではなく、クラブの運営に協力する責務がある。

そして、南国市学童保育連絡協議会は各クラブ委員会から選任された理事と協議会が認める個人で構成され、任意団体でありながら、今では、市から年間1億円を超える運営費を委託されるまでになっている。



澤本理事長は組織立ち上げの頃から今の職責を担い、施設整備職員の採用と研修・教育、保護者と子ども達を取り巻くあらゆる環境整備に責任をもって、スタッフとともに取り組んでこられたとのこと。クラブの建物は市が整備。校庭への整備も市連協の要望から。毎年、市への要望活動をしていて、新規施設整備の際には設計にも関与しているとのことだった。職員の研修には特に力を入れていて、原則、研修受講は勤務がない午前中だが、研修は出勤扱いとなるので受講がしやすいとのこと。

利用は、授業がある日は下校から午後6時まで、夏休み等は午前8時開所、午後6時まで、保育料金は月5千円（おやつ代含む）。見学したひまわりクラブは、児童数の増加により2クラブとなったものを1つに集約したもので、2階建ての真新しい施設内は、指導員と児童による手作りのハロウィーン飾りが満載だった。



帰ってくる子ども達がどの子も、見知らぬ大人の団体に、元気よく挨拶をしてくれ、指導員の皆さんが和気藹々、生き生きと子ども達に寄り添う様子から、子ども達がクラブに「帰る」のを楽しんでいることがよく分かった。当市でも留守家庭児童育成クラブ事業で民間委託が始まっており、民間での運営手法を学ぶことは、当市の今後活かせる部分も大きかったと思う。「組織は人」、子ども達の育ちは、取り組む大人の覚悟と熱意にかか

っていると、あらためて学ばせて貰った視察となった。